

令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	福島本村棚田保全PRプロジェクト
事業主体 (連絡先)	福島本村棚田委員会 0265-35-4713
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	リストから選択
総事業費	970,572 円

事業内容

福島区は、村内の山間部に位置するために水稲を作るための水が無く、水田を維持するための工夫が必要だった。現状として、水田上部と下部の2ヶ所のため池から水を取って各水田に水を供給している。このため池の機能を維持するために、委員と福島区の協力員で波板の設置、杭打ち、山砂を搬入し土手の補強作業を行う。

また、棚田の保全・管理をともに行う「棚田オーナー」のPRのため、棚田のオーナー募集の看板の設置とチラシの作成を行う。

棚田周辺の傾斜した畑(別途写真)の景観をよりよくするために、菜の花の種子を植えて栽培を行い、「棚田風景フォトコンテスト」を開催し、棚田風景をどれだけ綺麗に郷愁たっぷりに撮れるかを競い、福島棚田の認知度の向上と棚田オーナーのPRを図る。



【棚田保全のためのため池土手補強】

【目標・ねらい】

- ①棚田のため池修繕を地区住民主体で行い、棚田の維持管理と存続を自らの手で行っていく意識を高める。
- ②てっぺん公園に棚田オーナーのPR看板を設置することで、今まで知らなかった人達に棚田オーナーが周知されるようにする。
- ③菜の花の植栽によって、都市住民と農村住民の交流の場である棚田の景観をよりよいものし、地域活性化の拠点としての今後の活動促進に寄与する。

事業効果

①棚田委員会の委員と福島区の協力員で話し合いを行い、作業を分担した上で、地区住民が一体となって本事業に取り組み、棚田保全のための十分な環境整備をすることができた。

②棚田のオーナー、棚田保全協力隊の募集の看板とチラシをてっぺん公園に設置し、村内外からのてっぺん公園の観光客に棚田オーナーのPRをすることができた。棚田が一望できるてっぺん公園に設置したことで、より多くの人の目につくようになり、棚田オーナーの認知度向上に繋がった。

③菜の花の植栽が、棚田周辺の畑(別途写真)の景観をよりよくする一助となった。なお、付随して開催する予定だった「棚田風景フォトコンテスト」については、植栽後の気温の寒さにより開花が遅れていることと、新型コロナ発生により延期となった。次年度開催予定。

※自己評価【A】

【理由】

地区住民が一体となって本事業に取り組み、棚田修繕を行ったことによって、農業活性化の拠点である棚田の重要性を地区全体で再確認することができ、今後の棚田保全の在り方や、都市住民と農村住民の交流促進について、一人一人が考え話し合い、今後の可能性、方向性を十分に検討することができたため。

今後の取り組み

さらなる福島棚田の認知度の向上と棚田オーナーのPRのため、今年度に行う予定であった「棚田風景フォトコンテスト」を次年度に行い、ホームページ、ツイッター等のSNSを活用した周知をしていきたい。また、広く地区住民を巻き込んで、棚田保全を通した都市住民と農村住民の交流促進についての他の地区との連携を図り、棚田オーナーのさらなる周知促進に取り組んでいきたい。